



アブラナのがくは、なんのためにあるの



がくは、花がつぼみのとき、花をつつみこんで雨や風、外の寒さなどから、花を守っているのだよ。

がくは、花を守る役目をしている

たいていの花が、はじめは緑色の小さなかたいつぼみです。つぼみのとき外側をつつむものが、がくです。がくは、花を守っています。花が開くと、役目が終わったがくは、花の下部についたままのことが多いものです。

ケシの花のように、花が開くとき、がくが取れて落ちてしまうものもありますが、ナスやカキやイチゴのように、花がちった後もがくが残り、実になったとき、へたになるものもあります。

がくがない花もある

チューリップの花には、がくが見あたりません。チューリップの花びらをよく見ると、内側の3まい、外側の3まいからできているのがわかります。この外側の3まいの花びらは、もとはがくだったものが変化したのです。

アヤメ、カキツバタ、ハナショウブなども、外側にたれた花びらは、じつは、がくが変化したもので、内側にある3まいだけが、もともとの花びらなのです。アヤメ類の花のめしべやおしべは、細い花びらのような形になっています。

